

政策を問う

「ヘッジファンド規制は必要か」

「1990年代の半ば以降、預金を集めて運用する銀行や年金基金など、普通の生活者に影響を与えかねない主体がヘッジファンドに投資するようになってきた。投資家保護が必要になったといえ、情報開示の在り方が重要となっている。90年代以降、ヘッジファンドも自ら開示に注意するようになってきた」

規制は難しいという見方もあるが

「二つのファンドに縛りを付けて規制するのは非現実的。(98年に破綻した米大手

ファンドの) LTCMのような連鎖のリスクを防ぐのは必要だが、細かな登録を要求すると、ファンドは規制の緩いシンガポールや香港に逃げてしまい、結局、国益にならない」

「ヘッジファンドはいわば資産運用業界のベンチャーで、起業家スピリット(精神)を持っている。自由にできることが大切で、投資家保護だけにこだわると日本の資産運用は絶対に世界一になれない。米国以上の金融資産がある日本が世界一にな

シブサワ・アンド・カンパニー 渋沢健代表

しぶさわ・けん 米系投資銀のJPモルガン、ゴールドマンサックス証券、大手ヘッジファンドのムーア・キャピタル・マネジメントなどを経て、平成13年、資産運用コンサルディング会社、シブサワ・アンド・カンパニーを設立。日本資本主義の父といわれる渋沢栄一から数えて5代目。46歳。



「ヘッジファンドはいいわば資産運用業界のベンチャーで、起業家スピリット(精神)を持っている。自由にできることが大切で、投資家保護だけにこだわると日本の資産運用は絶対に世界一になれない。米国以上の金融資産がある日本が世界一にな

の機関投資家が主で、説明やルールに縛られる一方で成果を要求する。これでは良いマネジャーでも力を発揮できない」

「米国では、投資家側が規制されている」

「日本は富裕層と個人の分け方がはっきりしない。欧米は投資の経験や(保有財産、収入の)金額ではっきりと富裕層を定義しており、ヘッジファンド投資にノンプロは手を出せないようになっている」

「健全な資本市場には、なるべく多くの価値観を持った投資家が参加する方がよい。価値観

がぶつかるからこそ売り買いがあるわけで、あのような超アクティブ運用のファンドも必要だろう」

「ただ、ファンド資本主義には限界がある。株価を上げるという面では経営陣とファンドの利害は一致し得るが、ファンドは合理的、効率的な行動を旨とし高い価格になったら早く売りたいので、時間軸のところは合わない。市場から長期志向のお金がどんどんなくなっていることは危惧するところだ。本来は長期の年金なども10年、20年ではなく『今期どうか』という判断に流れがち。見えない価値、数字にならない価値をきちんと評価する投資も必要だ」

「健全な資本市場には、なるべく多くの価値観を持った投資家が参加する方がよい。価値観

ヘッジファンド規制

情報開示の在り方が重要

(納富優香)